

# 令和 8 年度 県立土浦工業高等学校自己評価表

目指す学校像	自己開発や自己実現に必要な知識・技能の修得を図るとともに、豊かな人間性の涵養と心身の鍛練に努め、幅広い視野に立って社会の発展に寄与する青少年の育成を図る		
三つの方針	具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	工業に関する実践的な技術・技能の修得と、自ら考え行動する主体性、他者と協働する協調性の育成により、地域社会における産業の担い手として貢献できる人財を育てる。	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	工業各学科の特徴を生かした実践的・体験的な教育課程と地域産業界・業界団体と連携したキャリア教育による、就職から進学まで、生徒一人一人に対応した進路希望を実現する。	
	「入学者の受入れに関する方針」(アドミッション・ポリシー)	ものづくりや工業の様々な分野に関心を持ち、専門的な技術・技能の修得と自らの進路実現に向けて積極的に様々な活動に取り組む意欲のある生徒。	
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>本校では、生徒一人ひとりの学力向上と主体的な学習態度の育成を目指し、授業改善やカリキュラムマネジメントの推進に取り組んできた。その結果、生徒が学習内容を実感しやすい題材設定が進み、視聴覚教材の活用や発表活動の充実によって表現力の向上も見られるようになった。また、教科横断的な取り組みが広がり、教員間で新教育課程に対する意識共有が進んだことも成果として挙げられる。一方で、評価項目の精緻化や、生徒の学習意欲の個人差への対応など、授業改善を全教員で均質に進めるための課題が残されている。</p> <p>工業教育においては、特色を生かしつつ新たな技術を取り入れた実験・実習内容への見直しが進み、安全確認の徹底により生徒の安全意識も向上している。しかし、技術革新に対応した教材・設備の更新や、安全教育の形骸化を防ぐための指導方法の工夫など、継続</p>	工業教育の特色を活かし、社会貢献ができる生徒の育成	<p>① ものづくりや資格の取得を強化して、工業に関する知識・技能・技術を修得させる。</p> <p>② 工業教育の特色を十分に発揮し、新たな技術に対応できる実践力と未来を創造する力を養う。</p> <p>③ 工業人としての自覚を形成し、社会の変化に対応できる、自ら学び、考える「生きる力」を育む。</p>	
	主体性を生かしたキャリア教育の推進	<p>④ 組織的、計画的なキャリア教育により、社会における自己の役割と在り方を探求し、進路決定100%を実現する。</p> <p>⑤ 企業や地域社会との連携を強化して、実践的・効果的なインターシップを実施する。</p> <p>⑥ コミュニケーション能力を高めるとともに、正しい勤労観・職業観を育成する。</p>	
	豊かな心の育成と基本的な生活習慣の確立	<p>⑦ 学校・家庭・地域社会が連携して基本的な生活習慣の確立を図る。</p> <p>⑧ 一人一人の生徒を理解し寄り添うとともに、高校生としての自覚を持たせ責任感を身に付けさせる。</p> <p>⑨ 組織的、計画的な生徒指導を全教員で行い、規範意識を高め、マネーと道徳心を大切にする姿勢を育成する。</p> <p>⑩ 本校の「いじめ防止基本方針」に基づき、学校・家庭・地域住民、その他関係者と協力して、いじめの防止等に取り組む。</p>	

別紙様式 2 (高)

<p>的な改善が求められる。</p> <p>ICT 活用の面では、生徒用タブレットの利用が広がり、Google Classroom や Forms を活用した家庭学習の定着が進みつつある。教員間の ICT 研修も継続され、授業での双方向的な活用が増えてきたことは大きな成果である。一方で、生徒の ICT 活用スキルには個人差があり、家庭学習の習慣化についてもさらなる支援が必要である。</p> <p>進路指導においては、資格検定の合格率向上に向けた取り組みや、SPI・筆記試験対策の計画的な実施により、就職希望者の準備が着実に進んでいる。</p> <p>また、企業研究やインターンシップを通して職業観・就業観の育成が図られている点も評価できる。しかし、上級資格取得者の増加や、進学希望者への個別支援の充実など、進路多様化に対応した指導体制の強化が課題である。</p> <p>生徒会活動や学校行事では、生徒に役割を持たせることで主体的な参加が促され、地域イベントや校外活動を通して学校の魅力発信も進んでいる。ただし、活動の継続性を確保するための組織的支援や、生徒間の参加意欲の差を縮めるための働きかけが求められる。</p> <p>生活指導では、交通マナーや自転車の安全な利用に関する指導を継続し、生徒の事故防止意識が高まってきている。また、SNS の適切な利用についても指導を重ねることで、情報発信に伴うリスクへの理解が進み、トラブルを防ごうとする姿勢が定着しつつある。今後も新たな問題が生じる可能性があるため、継続的な啓発と指導の更新が求められる。</p> <p>道路交通に関しては、法改正により自転車利用のルールが見直され、生徒が日常生活で意識すべき点が増えている。これらを確実に</p>	<p>基礎学力の向上</p>	<p>① 生徒の実態に即して、ICT等の活用や「わかる授業」を実践し、授業の改善に努め、基礎的・基本的な学力を身に付けさせる。</p> <p>② 必要に応じて、義務教育段階の学習指導も行き、自ら継続して学ぶ習慣を身に付けさせる。</p> <p>③ 進路希望に応じた個別最適な学びを実践することにより、より高い目標に挑戦する意欲を育て、「確かな学力」を身に付けさせる。</p>	
	<p>特別活動の活性化</p>	<p>④ ホームルーム活動や部活動などの様々な学校生活の中で、自主性・協調性を発揮し、問題解決しようとする実践的な態度を身に付けさせる。</p> <p>⑤ 部活動の加入・継続を促し、健全な心身の成長と、広く有意義な交友関係を築くとともに、学校の活性化を図る。</p>	
	<p>P T A 活動の活性化</p>	<p>⑥ 生徒一人一人の健全な育成を目的として、保護者と教師が密に連携し、信頼関係の上に P T A 活動を推進する。</p> <p>⑦ 地域社会と連携し、積極的に情報を発信する機会を設け、開かれた学校づくりを推進する。</p>	
	<p>信頼される学校づくり</p>	<p>⑧ 教員一人一人が、コンプライアンスを遵守し、「信頼される教員」であることが「信頼される学校」づくりにつながることを認識する。</p> <p>⑨ 教員がこれまでの働き方を見直し、自分の授業を磨くとともに日々生活の質や教職人生を豊かにすることで、自らの人間性や創造性を高め、子供たちに対して効果的な教育活動を行う。</p>	
	<p>働き方改革に関するもの</p>	<p>⑩ 定時退勤日の設定や時差出勤制度の活用による業務効率化の意識向上と残業時間の削減。</p> <p>⑪ 「部活動の運営方針(改訂版)」(令和4年12月茨城県)に基づいた部活動運営による残業時間の削減</p>	
	<p>キャリアパスポートに関するもの</p>	<p>⑫ ものづくりの課題を予見と分析をすることで計画を立て、その課題には適切に処理をしながら改善を加えて、その課題に取り組める力を身につけさせる。</p> <p>⑬ 地域に貢献できる工業人として、働くという自らの将来の生き方に関連する情報を収集し、活用できる力を身に付けさせる。</p>	
	<p>授業改善</p>	<p>⑭ 高校生のための学びの基礎診断における「平均 GTZ 指数」C2～D2を目指す。</p> <p>⑮ 生徒アンケート「生徒の努力を認め、意欲が高まるように学びの内容や進め方を工夫している。」肯定的割合 80%</p> <p>⑯ 生徒アンケート「教師が授業前にタブレット端末をすぐに利用できるように用意させている。」肯定的割合 50%</p>	

別紙様式2 (高)

<p>理解させるため、指導内容を最新の情報に基づいて整理し直すとともに、家庭や地域と連携して学校外での安全意識を高めていくことが課題となっている。</p> <p>いじめ防止については、対策会議での情報共有が密に行われ、担任による面談や家庭との連絡も定着しつつある。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携も進み、支援体制が整いつつある点は大きな成果である。一方で、いじめの未然防止に向けた教育的アプローチの強化や、被害生徒の心のケア体制のさらなる充実が今後の課題となる。</p>		<p>安全に対する取り組み</p>	<p>㉗ 生徒アンケート「工業教育の特色を理解し、工業に関する知識・技術を習得できた。」肯定的割合 50%</p> <p>㉘ 茨城県教育委員会が主催する生徒評価アンケートによる生徒満足度(KPI)3.1以上。</p> <p>㉙ 授業・実習における作業内容、作業環境の中で起こりうる危険を事前に予測・確認し、事故の未然防止を継続的に行う。</p>	
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教科指導 (国語科)	基礎学力の向上	生徒の主体的な学びを引き出すために、ICTを活用するなど、生徒の実態に即して丁寧な授業を行う。 ⑪		
		副教材等を活用し、社会に出るに当たって必要な漢字力・語彙力の向上に努めさせる。また、漢字検定を年間3回実施し、目標達成に向けた学習に取り組ませる。 ⑫⑬		
	学習意欲を高める指導方法の工夫	定期的小テストを実施することで、生徒に達成感や小さな努力を積み重ね学び続ける大切さを実感させる。 ⑪⑫		
		学習の進め方や課題をより具体的に示し、継続的な家庭学習を促す。 ⑫⑬		
	進路に応じた学習の補助	生徒それぞれの進路実現に向けて、一般常識や作文などの指導を定期的に行う。 ⑫⑬		
		進路活動と関連付けて、話すことや書くことの指導を行うことで、コミュニケーション能力を高める指導を行う。 ④⑥⑬		
教科指導 (地歴・公民科)	基礎学力の向上	基礎的・基本的な学力の定着のため、授業内容の精選、教授方法や定期考査の改善を図る。 ⑪⑫⑬		
		生徒の主体的な学びにつながるよう、調べ学習や発表の機会をもうけ、生徒表現力も同時に育む。 ⑪⑫⑬		
	学習意欲や理解を高める指導法の工夫	教科書の内容を軸としながら、生徒の問題関心に沿って題材を取り上げ、学習意欲向上につなげる。 ⑪⑬		
		生徒の学習意欲を高め、かつ学習内容の理解を向上させるため、視聴覚教材等を使用し、教授方法の工夫改善を図る。 ⑪⑬		



別紙様式 2 (高)

		与えることで家庭学習における学習指導の確立を図る。⑫		
		ペアワークやグループワークによる言語活動を充実させ、英語を用いて生徒が能動的に考えることのできるような授業展開を心がける。③⑫		
		1 学年の英語コミュニケーション I において、ALT との T T を通して生徒の英語学習への動機付けを図る。また、英語によるコミュニケーション能力を高め、異文化理解を深める。多様な言語活動を行い、生徒の集中が切れない授業を目指す。③⑥		
		電子黒板等 I C T を積極的に利用し、生徒の実態に応じた指導方法の工夫を図り、興味・関心を引き出し、生徒の集中力を持続させられるように努める。⑪⑫		
	資格取得の推進	リスニング英語検定の補習等を計画的に企画・実施し合格率の向上を図る。また、英語検定の受験を積極的に促し、目標達成に向けた指導を行う。①⑬		
	進学体制の構築	英作文の指導など生徒のニーズに応じた課外を行い、進学対策を行う。⑬		
教科指導 (家庭科)	基本的な知識と技術の定着	授業内容の理解を深めるため、電子黒板やタブレットを効果的に活用する。⑪		
		基本的な知識及び技術を確実に身に付けられるよう、基礎の反復を徹底する。⑪⑫		
	学習意欲を高める指導方法や教材の充実	教材や指導内容を精選し、生徒一人ひとりの進度に対応したきめ細かい指導に努める。⑬		
		段階的に難易度を上げることで、生徒の自信に繋がるよう工夫する。⑫		
	家庭生活の向上や課題解決に結び付く工夫	学習した知識や技術を生活の中で実践できるよう、実生活に結び付いた題材を多く取り入れる。③		
		生活の中の課題解決や自立のため、自ら考え、行動できる能力を育成する。⑦		
教科指導 (芸術科)	基礎的な知識と技術の定着	基礎的な知識や技術を身に付けられるように教材・副教材の精選を図る。⑪⑫		
		練習課題を充実させ、基礎的な技術を段階的に習得できるようにする。⑫		
	学習意欲を高める指導方法の工夫	生徒一人ひとりの個性に応じた個別指導の充実に努める。⑫⑬		
		通信環境を確保し、I C T 機器を活用した授業を展開する。⑪		
		生徒が何を学ぶことができたかが明確な題材を設定する。⑫		

別紙様式 2 (高)

教科指導 (機械科)	基礎・基本的知識と技術指導	基礎的・基本的な技術指導の充実を図り、実験・実習を通して知識・技術を体得させ、機械技術の発展に対応できる能力を養わせる。 ①②③		
	キャリア教育の推進	実習等を通して勤労意欲の向上を図るとともに協力して作業等にあたる姿勢および責任のある態度を育成する。 ②③⑥		
	施設・設備の充実	老朽化した施設・設備の更新、破損した施設・設備の修繕を図る。 ②③		
	資格取得の推進	必要な資格の調査を行い、資格取得の機会をつくるとともに継続的に指導できる協力体制の確立を図る。 ①④⑪⑬		
	指導者の技術向上	ICT等を活用した資料を共有し、授業の改善に努める。指導者の技術向上のため、研修等の機会をつくる。 ⑤⑪		
教科指導 (電気科)	教科指導の充実	基礎・基本に重点をおき、基本的な知識・技能の定着につながる指導をする。わかり易い授業を目指し、授業の改善工夫をする。 ①②⑧⑪⑱		
	ものづくり技術の習得	ものづくりに関する実習を充実させ、技術・技能の向上を図る。開放講座や産業祭等で体験教室等を実施し、地域社会へPR活動を展開する。 ①②③⑤⑥		
	実習設備の整備	整理整頓、清掃を実施し、実習室の美化に努める。老朽化した施設設備の更新と、既存機器類の性能維持に努める。 ②③⑦⑨⑲		
	資格取得の推進	課外指導を展開すると共に家庭学習の習慣を身に付けさせ、各資格試験の合格率の向上を目指す。 ①③⑧⑫		
	キャリア教育の推進	社会人として求められる規範意識やマナーを身に付けさせる。健全な勤労観の育成と、進路意識の高揚を目指す。 ③④⑤⑥⑦⑧		
	安全教育の徹底	実習室の機器・器具の整理整頓と点検を行い、経年劣化の発見と更新手続きを進める。実習を通して、安全に対する意識を高め、事故の未然防止に努める。 ②③⑨⑬⑳		
教科指導 (情報技術科)	授業改善の推進	基礎基本の学習に重点をおき、分かり易い授業の実践をめざす。ICT等を活用した授業の工夫・改善を図るとともに、教員の指導力向上に努める。 ⑪⑫⑬⑲⑳㉑		
	課題研究の充実	ものづくり教育を推進しながら、専門性を重視し、課題研究に対して自主的・主体的に取り組む態度を養成する。 ①②③		
	キャリア教育の充実	健全な勤労観の育成を目指し、授業や実習を通して社会人としての規範意識やマナーを身につけさせ、進路希望の実現を目指す。 ④⑤⑥⑨		
	検定合格・資格取得の推奨	情報技術関連をはじめ、各種検定合格・資格取得を目標とすることにより、専門教科への興味や関心を高め、工業に関する知識・技能・技術を修得させる。 ①②		
教科指導 (建築科)	授業の工夫・改善	工業に関する知識・技能・技術を学び、実践力を身につけることで、主体的に取り組む態度を養う。 ①②③⑲⑳㉑		
		積極的にICTを活用するなど授業の工夫、改善に努めながら、生徒の興味や関心を引き出す。 ②⑪⑳		

別紙様式 2 (高)

	キャリア教育の充実	建築関連の資格取得をはじめ、工業全般の資格取得を目標とすることにより、専門教科への興味や関心を持たせる。 ①②		
		実習開始の事前指導を通して、授業に取り組む姿勢や基本的な生活習慣を身に付ける。 ⑥⑧⑨		
		現場見学会や建設会社での就業体験を実施し、建設業界への理解や建築への興味・関心をさらに持たせるとともに、建設会社への就業意識を高める。 ④⑤⑥⑨		
	PRの推進	各種イベントや発表会等の機会を通じて、課題研究や実習等の成果を生徒とともに校内外に情報発信をする。 ⑭⑰		
生徒の取り組みや学校生活が見えるように、ホームページやSNSを積極的に活用する。 ⑰				
教科指導 (土木科)	土木に関する基礎技術の習得	授業などとおして、基礎学力の充実を図り、土木技術の進展に対応できる能力を養う。 ①②⑫		
		生徒の実態に合った授業内容の工夫や教員の指導力の向上および放課後等の補習の実施により、学習内容の定着に努める。 ①⑪⑬		
	勤労観および社会人基礎力の育成	授業等とおして、土木技術の社会的意義を理解させ、正しい勤労観を養う。 ③⑥		
		現場見学や体験学習などを取り入れ、土木技術の社会的意義や重要性を実感させる。 ③⑤		
	生徒理解に努める	服装や挨拶、時間の厳守などの指導を徹底することにより、基本的な生活習慣の確立を図る。 ⑦⑨		
		授業等の時間および面談をおし生徒理解に努める。 ⑧		
教務部	特色ある教育課程の編成と運営	学校行事等の精選と授業時間確保を行い教員の働き方の効率化に努める。 ⑪⑫⑬⑳		
		生徒が自ら学習に意欲的に取り組む態度を育成することで、基礎学力の向上を図る。 ①②③		
	指導計画・評価の明確化	学習評価の工夫改善を推進し、観点別評価のより一層充実に務める。 ②③⑪⑫⑬		
		シラバスを作成することで、指導目標、評価の観点、方法を明確にして、生徒の主体的な学習参加を促す一助とする。 ②⑬		
	学校広報の充実	工業科施設見学・説明会、中学校説明会を充実させ、本校の魅力を直接的に地域に伝える。 ⑰		
		学校案内、Webページ等のデザインや内容の充実を図る。 ⑰		

別紙様式 2 (高)

	教員研修の充実	電子黒板や学習用端末などのICT活用、いじめ対応やコンプライアンス等の教員研修を充実させる。 ⑪⑫⑬		
	ICT教育活動の推進とGIGAスクール対応	教育活動での活用例の紹介などを通して、ICT機器の利活用を促進していく。 生徒・教員のGIGAスクール構想への理解を深め効果的な教育活動になるように支援する。 ⑪⑭		
生徒指導部	基本的な生活習慣の確立	全職員による年間を通じた朝の立哨・昼の巡回指導、生徒への声かけを行い、挨拶や服装、言葉遣いなど、マナーの向上や規範意識の向上を図る。 遅刻指導をより一層充実させ、基本的な生活習慣の確立を図る。 校内におけるスマホ使用のマナーやながらスマホ・イヤホンについて指導の徹底を図る。 ⑦⑧⑨		
	問題行動の未然防止	校内・校外の巡視及び立哨指導、被害調査を定期的及び臨時的に実施し、問題行動の未然防止に努める。更に家庭や関係機関との連携を密にし、情報共有を図り、適切な指導を行う。 ⑦⑧⑩		
	交通安全教育の推進	交通事故防止対策について、関係機関と連携を強化すると共に、交通法規やマナーについて、ホームルームや集会、講習会等を通して指導し、交通事故の未然防止を図る。 自転車点検、バイク点検を年3回実施する。 ⑧⑨		
	いじめの未然防止と早期発見・早期解消	いじめを防止するための指導を徹底する。また、いじめの疑いのある行為が確認されたときは法に則った初動対応を大切に、被害生徒へのサポートと加害生徒への指導を丁寧におこない、早期解消を図る。 ⑧⑨⑩		
	インターネットを介した諸問題の防止	「土浦工業のスマホ等の使用のルール」について周知徹底を図り、又ホームルーム活動での啓発や講習会での啓発など、ネット(SNS等)を利用時におけるトラブルの防止に努める ⑨⑩		
	校則検討	学校や社会の実態に即した校則を、生徒会役員を含む校則検討委員会と共に、年に1回検討する。 ⑧⑨⑭		
進路指導部	学年支援	進路ガイダンスや適性検査などを活用し、段階的に進路を明確にできるよう学年へ支援を行いながら、キャリア教育の展開を図る。 ②③④⑥⑧⑭		
	外部連携の充実	2年次のインターンシップ、3年次の進路セミナー、企業との産学連携など、外部と関わる事業を通して勤労観や社会性、職業に対する見方・考え方の形成を図る。③④⑤⑥⑦⑨⑰⑳		
	情報提供と支援	進路指導室の整理整頓を行い、利用者に対する環境づくりに努める。求人や指定校情報など常に改善をしながら情報を発信していく。奨学金の情報提供や申し込みなど、在校生や進学予定者を支援する。 ㉓		
	資格取得の奨励	ジュニアマイスター顕彰制度を活用し、資格取得の奨励を推進する。また、全員受験の検定試験の計画や資格取得者データの処理を正確に行う。 ①⑪⑬		

別紙様式 2 (高)

図書視聴覚部	図書館・視聴覚室の利用の活性化を図る	授業やHR、学校行事その他、幅広い機会での図書館・視聴覚室利用を促し、職員・生徒への便宜を図る。 ③⑭		
		担当職員での連携を密にし、昼休み・放課後の当番制を実施し運営にあたる。 ⑨⑳		
	施設の利用マナーを通じた規範意識の育成	利用する職員との連携を図り、利用生徒のマナー向上を図る。 ⑧		
		積極的に図書館運営活動ができるよう図書委員会を指導する。 ⑥⑭		
図書館・視聴覚室の利用環境整備	職員・生徒のニーズに合わせ、蔵書・器材の充実を図り、計画的に購入整備を進めるとともに、図書館内の整理整頓に努める。 ③⑱			
読書指導の充実	「図書館のしおり・図書館だより」や図書館内のコーナーなどで、読書への興味を喚起するとともに様々な形態での楽しみ方を提供する。 ③⑥⑨⑰			
渉外部	P T A活動の活性化	本部役員を中心とした委員会活動や研修会などを通し、保護者と教職員が連携を取り、協力し合うことで、P T A活動の充実と活性化を図る。 ⑰		
	積極的な情報発信	広報誌「いちょう」の発行をすることで、情報が家庭に伝わるようにすると共に、地域社会と連携し、開かれた学校づくりに努める。 ⑰		
保健厚生部	健康の保持増進	定期健康診断を正確に受けさせ未実施者をなくす。 ⑭		
		HRと連携し、健康・安全の自己管理能力を高める。 ⑦		
		カウンセリングの充実と、関係機関とのより一層の連携を図る。 ⑧⑩		
	環境衛生の維持向上	日常検査及び定期検査を実施し、事後処理を迅速に対応する。 ⑨		
		毎日の清掃指導を徹底させるとともに、きれいに使う指導をする。 ⑦		
		ゴミの分別（ペットボトルと空き缶）と少量化に努める。整美委員会により環境美化を図る。 ⑦		
	安全な学校生活の保持	学校生活を通して危機管理マニュアルの周知徹底を図る。 ⑦⑭		
		緊急時にはその場にいる教職員が迅速に対応する。 ⑦⑧		

別紙様式 2 (高)

		防災訓練は地震火災等の状況下の避難方法を経験させる。 ⑨		
		地域住民と連携し安全の確保を図る。 ⑦		
特別活動部	生徒会活動・学校行事の活性化	学校行事を通して、生徒一人一人に役割を持たせ、自分も関わろうとする意欲を引き出すよう努める。工業祭、つちこうフェスなどの行事を通して責任感や自主性、協調性の育成に努める。生徒会本部役員が主体となり、常置委員と連携して運営できるようにする。 ⑭⑮		
	部活動の活性化	新入生の部加入を促して加入状況を把握し、部顧問と HR 担任との円滑で連携した指導につなげ、適正な運用に努める。また、行事費、旅費等の便宜を図り、生徒への予算の還元に心がける。家庭とも連携し、積極的かつ継続的な活動ができる環境づくりを図る。 ⑭⑮		
	HR 活動の活発化	HR 活動の年間計画を検討し、学年、担任と協力して HR 活動の活発化を促し、生徒の集団内での自己実現を図り、誇りや愛校心を持てるような活動を通して育成する。 ⑭		
	キャリアパスポートの運用	進路指導行事や各学科の学習活動と関連づけたキャリアパスポートの活用を促し、各 HR および特別活動を通して生徒の自己のキャリア形成を支援する。 ④⑳㉑		
	生徒会の委員会の活用を促す	担当校務分掌との連携を図り、生徒会の行事に委員会が積極的に関わるように働きかけ、成果を通して生徒の参画意欲を育てる。 ⑭		
	生徒会活動の広報	生徒会 HP、校内モニターを活用し、生徒会活動・学校行事等の広報に努める。 ⑭		
ICT 事業部	校内 LAN の管理・運用を行う。	校内 LAN、ファイルサーバの管理・運用を適切に行い、有効に活用できるように努める。 ⑪⑱⑳		
		情報保護やウイルス対策などセキュリティ対策に努める。 ⑱		
	校務支援システムの運用支援を行う。	校務支援システムの管理・維持を行い、円滑な運用と適切な活用ができるように努める。 ⑱⑳		
	情報発信の改善・運用を行う。	ホームページを適切に管理・運用し、本校からの情報発信を行う。 ⑤⑦⑰⑳		
	ICT 教育の支援を行う。	教育セグメントの環境整備に努める。ICT 機器、備品等の適切な維持、管理に努める。 ⑪⑱		
第 1 学年	豊かな心の育成と基本的な生活習慣の確立	基本的な生活習慣の確立と人格の完成を目指す。 人間相互のコミュニケーションを深めるために挨拶をしっかりとできるように図る。 ⑦⑨		

別紙様式 2 (高)

		生徒面談、保護者面談を通して生徒理解に努め、適切な指導を行う。 ⑧⑩		
		「いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの未然防止、早期発見解決に努める。 ⑩		
	基礎学力の向上と資格取得の推進、進路意識の向上	授業を大切にし、基礎学力の定着と学習習慣の確立を図る。 ⑪⑫		
		資格試験、検定試験の受験を促し、合格できるよう指導する。 ①②		
		進路指導部と連携し、講演会やワークショップを実施して進路意識の向上を図る。 ⑬		
	生徒会活動や部活動の活性化	部活動の加入、定着を促し、生徒の有意義な交友関係と学校活性化を図る。 ⑭⑮		
主体性を生かしたキャリア教育の推進	進路講話や職業体験を通し、社会における自己の役割と在り方を探求し、適切な進路決定を目指す。 ④			
	コミュニケーション能力を高めるとともに、正しい勤労観・職業観を育成する。 ⑥			
第2学年	豊かな心の育成と規範意識の確立	中堅学年として、基本的な生活習慣が身についた学校生活をめざす。 「道徳プラス」をホームルームで実施し、主体的・協働的な態度を育成する。 「いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの未然防止、早期発見・早期解決に努める。 ⑦⑧⑨⑩		
	基礎学力の定着と資格取得の促進	インターンシップやLHRを利用して作文指導を実施し、志望理由など文章を書く能力の向上を図り、自己紹介書の指導につなげる。資格取得に積極的に取り組ませ、工業に関する知識・技能を修得させる。 ①②⑫⑬		
		LHRの時間を利用して一般常識&SPI問題集を計画的に進め、基礎学力の定着を図る。大学進学希望者を対象に英・数・国の課外授業を検討し、外部模試や一般入試に対応できる学力を養う。 ⑪⑫⑬		
	進路意識の高揚とキャリア教育の推進	進路指導部、進路業者との連携により進路ガイダンスを実施し、進路意識の高揚を図る。就職希望者に対して企業インターンシップを実施し、正しい勤労観・職業観を確立すると共に、社会に通用するマナーやコミュニケーション能力を育成する。進学希望者に提供する情報を充実させるとともに、オープンキャンパスや高校生対象の公開講座への参加を促す。 (各個人での任意での参加) ④⑤⑥		
	修学旅行の準備と成功	広島の前まで来た歴史と平和の尊さを考えさせる平和学習を実施する。また広島・大阪の豊かな自然や文化に触れ、実感できる場を提供する。 LHRや学年集会を利用して十分な事前指導を行い、安全で充実した修学旅行を実施する。 ⑭⑮		

別紙様式 2 (高)

	生徒理解と保護者との連携	定期的な個人面談を引き続き実施することで、生徒との信頼関係を確立できるように努める。 家庭との連絡は電話連絡を基本とするが、必要に応じて家庭訪問や学校での面談を実施し保護者との連携を密にする。 SCやSSWと連携した教育相談活動の一層の充実を図る。 ⑧⑩⑬⑰		
第3学年	安心・安全な学校生活の継続	最上級生としての自覚を持ち、社会常識やマナーに鑑みて判断し責任ある行動をとる。 自他の生命と人権を尊重し、豊かな人間性を育成する。 ⑦⑧⑨⑩⑬		
	進路希望・進路目標の実現に向けた指導	生徒一人ひとりの能力や適性に応じた進路目標を持たせ、達成に向けたきめ細やかな指導を行ない、基礎的専門知識・技能を持った地域社会に貢献できる生徒の育成を図る。 進路セミナーや進路ガイダンスなどを利用して企業研究を行い、就業意識を高める。 ①②③④⑤⑥⑪⑫⑬⑳		
	社会人になるための生活習慣・規範意識の高揚	基本的な生活習慣を確立させ、礼節を重んじる態度を養う。 外部講師を招いた講演会や学習会を実施し、社会人になるための必要な知識と心構えを学ぶ。 ④⑥⑦⑧⑨		
	生徒理解と保護者との連携	定期的な個人面談を実施することで生徒が相談しやすい環境を作り信頼関係の構築を図る。 保護者との連携は迅速かつ丁寧に行い、誤解や齟齬が生じないように対応する。また必要に応じて複数人での家庭訪問や学校での面談を実施する。 SCやSSWと連携した教育相談活動の一層の充実を図る。 ⑦⑨⑩⑬⑰⑱		
いじめ問題 対応の取組	未然防止	生徒の自己有用感を高める。 ⑧⑨⑩		
		生徒の規範意識を高める。 ⑧⑨⑩		
		生徒が教職員と相談しやすい関係を構築する。 ⑧⑨⑩		
		情報モラル教育を推進する。 ⑧⑨⑩		
		いじめの早期発見に努める。 ⑧⑨⑩		
	早期発見	保護者から学校へ相談できる関係を構築する。 ⑩		
		複数の相談窓口を生徒や保護者へ周知する。 ⑩		
		被害者の心のケアをする。 ⑧⑨⑩		

別紙様式 2 (高)

早期解消	適切にいじめの事実を確認する。	⑧⑨⑩		
	加害者に対して、いじめをやめさせる。	⑧⑨⑩		
	重大事態の調査をし、県教育委員会を通じて知事へ報告する。(重大事態があった場合)	⑩		
	インターネットを通じて行われるいじめに適切に対応する。	⑧⑨⑩		
	保護者と密接に連絡を取り合う。	⑩		
	地域の協力を得ていじめに対応する。	⑩		
	警察、児童相談所、法務局等の関係機関と連携する。	⑩		
	学校以外の場で起きたいじめに適切に対応する。	⑩		
	教職員研修	実践的研修を行う。	⑩	
		事例研究を通して、いじめの対応方法の共通理解を図る。	⑩	
インターネット・SNS等に関する研修を行う。		⑩		

※ 評価規準 A:十分達成できた B:達成できた C:普通 D:やや不十分 E:不十分